

子ども・子育て会議 主な意見

第1回	
幼保一体化・認定こども園	<p>計画策定にあたって</p> <p>認定こども園など文科省の立場、厚労省の立場で議論するというやり方が、今まで認定こども園が誕生できなかった最大の原因。町として必要性を認めるならば福祉・教育の枠を超えて総合的に議論すべきである。 ⇒p45「教育・保育の一体的提供推進(認定こども園について)」に意見掲載 ⇒p66「庁内の体制」に反映</p>
町の施策・体制・理念	<p>今回の計画は町民福祉課が事務局ということだが、学校教育も関わるのだから教育委員会も事務局に参加する必要があるはず。 ⇒p9「計画の策定体制」会議設置図に反映 ⇒p66「庁内の体制」に反映</p>
幼保一体化・認定こども園	<p>保育所機能を残し、幼稚園の中で子どもたちと一緒に育てようという試みで幼保連携を行った。保育所の子どもが幼稚園で教育を受け、時間になると保育所のほうに戻ってくるという方法。保護者にはよかったが、子どもたちの中では保育所と幼稚園に壁があり、お互いどこか違うというものを持っていったよう。本当に一本化してできればすばらしい。保育所機能、幼稚園機能を持ちながらも子どもたちが負担なく中で過ごせる施設なり環境が必要。 ⇒p45「教育・保育の一体的提供推進(認定こども園について)」に意見掲載</p>
幼保一体化・認定こども園	<p>幼稚園を利用しようと思った時、幼稚園は高度な教育をしていると聞き心配になって相談したが、保育所と変わらず伸び伸びと遊んでいることが多いと言われた。そういうところに教育の特色を出していたのかもしれない。幼保一体化ではそういった特色や、小学校に上がるときに不安のないような細やかな教育面でも統一されていく期待がある。 ⇒p44「教育・保育の一体的提供推進」今後の課題に反映</p>
幼保一体化・認定こども園	<p>今、子どもの人数は少ない。幼稚園の年少は8人、年長9人、小学校でも10人前後で1クラスという状態。認定こども園ができるならば学区越えても子どもを集めてという思いがある。 ⇒p45「教育・保育の一体的提供推進(認定こども園について)」に意見掲載</p>
町の環境・特色	<p>質の高い教育をどう提供するか、幼稚園も保育園も町立という地域はまれで、最高の町だと思う。自分の校長時代の経験で、遊具も何にもない広場と水の大自然の中で何やったらいいのかわからないという子どもの姿にショックを受けた。そのうち木に登ったり、水辺で遊んだりし始めたが、ちらりと目を向けるとやめてしまう。木に登っちゃいけないと教えられているからで、そういう姿を見て、子どもにとって本当にいい教育とはどういうことかなと考えさせられた。 本来、自然のある松島は本当にいい教育を提供できるはず。 ⇒p44「教育・保育の一体的提供推進」今後の課題に一部反映</p>
町の環境・特色	<p>物があふれ、子どもたちが与えられたおもちゃで遊ぶだけなど独創的なところが抜けていると思う。町民の森など自然もいっぱい素敵なのでもっとみんなが利用できるようにすればよい。親子で体を使って遊ぶような遊び場がほしい。 ⇒p62次世代育成支援行動計画「子どもの遊び場確保」に反映</p>
地域社会	<p>地域のつながりが希薄化していると言われている。定期的に村同士、家族同士で集まり会があり、子どもやお年寄りの交流を大切にしている地域の番組をみたことがある。こういう事例など我々のヒントになると思う。 少子高齢化は避けられないとしても、どのように地域社会を守って維持していくかは避けて通れない課題。松島はその面でいいところだから模範的な町としてやっていければよい。 ⇒p33「松島町の子ども・子育て支援の課題 ⑥ 地域社会による子育て支援」に反映 ⇒p62次世代育成支援行動計画「地域における子育てネットワーク、仲間づくりの推進」に反映</p>
児童館	<p>学童保育利用中だが、外に出させてもらえない。昔は夏休みに学校のプールまで連れていってもらったが、それもなくなり、冷房効いて涼しくていいよなどと子どもが言っている。かといって外で遊ぶ場所もあまりないので、ぜひそういう場所を併設した児童館に。 ⇒児童館についての方針等を計画掲載の方向で検討中★</p>
⑪放課後児童クラブ	<p>お友達が行くと、自分も行きたいと言うが、年を経るごとに留守家庭学級はつまらないから家に帰りたいとやめていく子も多い。子どもが使いたいサービスというのは難しい。</p>
第2回	
第5幼稚園	<p>松島町における子育ての現況と課題</p> <p>5小の方には保育所がないのに、これから作るのであればなぜ幼稚園だけなのか。北部から保育所に通うのは不便ではないか。せつかくならば、もう少し考えて施設を作ってほしい。</p>
第5幼稚園	<p>第5幼稚園は間借りしている状態で、人数も少なく合同保育をしている。保護者からも1部屋でなく年齢ごとの保育をして、年長らしさ、年中らしさをきちんと示せる保育をして欲しいという意見が出ている。園舎が新しくなっても、中の考え方が変わらないと何も変わらない。</p>

施設配置	これから児童数もどうなるか分からない状況で幼稚園や児童館の建設の話をするのが疑問。長期の人口の見通しがあって建設等しているのならよいが。第5幼稚園・小学校の子どもの増加は一時的でこれから減っていくと思う。北部は住むところも多く、山もあるのに偏りも感じる。
その他	子どもが減っていくのに幼稚園等を作ること、作るのであれば、なぜ認定こども園にしなかったのかという疑問もある。お金がないと言いながら建物だけ建てて完了というやり方だけはしてほしくない。
町の施策・体制・理念	子どもの数を増やすことはなかなか難しいだろうが、今いる子どもたちに何ができるかを考えていってほしい。松島に住んでよかったと思えるように。この町だったら兄弟を作ろうと思える町に。
町の施策・体制・理念	松島は便利のところなのになぜ過疎なのか考えるべき。町に魅力がなくなると転出してしまわないか。
幼保一体化・認定こども園	幼保一体化ならば同じ環境で過ごせる場所があった方がいいと思う。保育教諭という言葉があるように。分園と第2幼稚園で幼保一体を目指したとき、同じ教育を受けられるのはいいが給食から別というのはかわいそうに感じた。
町の施策・体制・理念	次世代育成後期計画は「いずれはこうしていきたい」という計画で、具体的になぜ子どもが減っているのかという部分が薄いと感じた。女性の手当てや子どもの手当てなど、どうしたら兄弟を産もうと思うかも考えていかなければ。各保育所の特色ももっと明確に出していってほしい。
その他	むしろ北部に(人の流れを)向かわせるような特色があってもいいと思う。
児童館	児童館を作る際の課題は、子ども同士の触れ合い、子育てをしている大人の触れ合いの場の不足ということだろう。育児サークルの発足はこの具現化なのではないか。児童館を作るならば、安心して子どもを連れて来られたり、父が子どもと触れあえる場に。 ⇒p62次世代育成支援行動計画「地域における子育てネットワーク、仲間づくりの推進」に反映 ⇒児童館についての方針等を計画掲載の方向で検討中★
児童館	児童館計画の児童クラブ室というのは遊戯室と別に指導員がいるということだが、留守家庭学級が使うということだろう。六郷支援センターの児童館に行ったら休日に中学生が勉強していた。休日に子どもが教わりたいと思える場所があれば、留守家庭学級の子どもも含めて基礎的学び支援の方で援助できないかと思う。 ⇒児童館についての方針等を計画掲載の方向で検討中★ ⇒p58「⑩ 放課後児童健全育成事業」>「放課後子供教室」の連携について検討
児童館	子どもの施設ならば日曜日も開けてほしい。 ⇒児童館についての方針等を計画掲載の方向で検討中★
児童館	日曜日が休みの児童館だと「留守家庭のための児童館」になるのではないか。 ⇒児童館についての方針等を計画掲載の方向で検討中★

第3回	新しい児童館について
児童館	児童館をつくる目的で、子育ての保護者層の交流ということも大きな課題。保護者が子どもを遊ばせながら交流するスペースの確保を。 ⇒児童館についての方針等を計画掲載の方向で検討中★
児童館	図書コーナーの目的はわかるが、1つの部屋をとるのではなく、子どもたちが遊ぶ中で自由に本に触れられるような環境をつくるほうがいいのではないかと思う。 ⇒児童館についての方針等を計画掲載の方向で検討中★
児童館	児童館周辺の屋外はどうなるのか。今までは一切外に出してもらえなかった。せっかく中庭的なスペースがあるのなら、外に出て遊べるような遊具や芝生などできないか。駐車場ならば近辺施設にもあるから、多少歩いてもらっても、ぜひ子どもたちの屋外スペース確保を。 ⇒児童館についての方針等を計画掲載の方向で検討中★
児童館	四国の施設の話聞いたことがある。幼稚園の子は午後は幼稚園から帰ってきたら児童館に、特に登録もなく親が送って行って名簿に書けば5時まで遊んでいていいというシステムらしい。小学生の学童の子は3年生までは学童保育として児童館にいる。ほかの小学生も学童に登録していない子は5時まで、学童の子は6時までいていいということらしい。お母さんたちがすごく助かる施設のように思える。自由来館型児童館と、学童と合体型のような感じのようだ。 ⇒児童館についての方針等を計画掲載の方向で検討中★ ⇒p58「⑩ 放課後児童健全育成事業」>「放課後子供教室」の連携について検討
児童館	わんぱくな子どもの遊びという発想もほしい。今の子どもはあまり遊ばない。理科系、自然系の配慮、例えば、庭のスペースに冒険心を育てるものや、平面的な芝生じゃない山を作る。植物や昆虫と触れられるなど。自然と接してわからなかったら調べるための図書コーナー、そういった発想がほしい。 ⇒児童館についての方針等を計画掲載の方向で検討中★

児童館	ロッカーが必要ではないか。保護者が子どもを連れて来たときに、貴重品に関するトラブルが起きているという話も聞く。
児童館	保健福祉センターは倉庫が少く、ホールの中に物が出ている状況。子育てのボランティアさんの人形劇やハンドベルなどもこちらに移ると思うので倉庫は必要。

第3回	
ニーズ調査の結果について	
町の施策・体制・理念	22年3月の「次世代育成行動計画」のアンケートの結果と今回の結果がほぼ同じのように思う。松島は随分いろいろなところに入力して進んでくれているが、同じような結果が出るということは、少し進み具合がゆっくりなのかなとも感じる。
幼児期の教育	望んでいるのは教育。幼稚園にも期待されている、保育所にも期待されるのは教育。それをいかにして計画の中に入れられるか。あと、幼稚園の3年保育をなぜやっていないのかという声がアンケートにも多かった。 ⇒p44「教育・保育の一体的提供推進」今後の課題に反映
幼児期の教育	自分は幼稚園に関係する立場だが、やはり教育の内容を保護者の方は一番望んでいるということ、3年保育でやってほしいという希望が多い。これまで松島は保育所があるから幼稚園は4歳、5歳だけという感じだったが。
幼児期の教育	保育所も幼稚園も私立がなく公立だけの町なので、幼稚園も最初の1年保育から2年保育になったのは画期的といえは画期的。次はやはり3年保育に行く時期なのではないか。
子どもを取り巻く環境	各小学校、各学年3～4クラスあって、公園に行けばお友だちがいるという状況と今は違う。3年保育など友だちと触れる場をつくってあげないといけない。全体数が少ないと子ども同士が遊べない。そういう器をつくってあげないといけない。親が楽をしたいから3年保育を望んでいるのではなく、子ども同士で遊ばせてあげたいという切実な思いなのではないか。 ⇒p61次世代育成支援行動計画「子育て支援の拠点づくり」に反映
町的环境・特色	海岸、高城や磯崎など結構公園はあるように思うが、子どもの姿を見たことがない。公園があっても子どもは一人ぼっちじゃ遊べないし、最近は危ないので子ども1人、2人を置いておけない。だから、子どもが集まってくる場所をあえてつくらないといけない。公園だけつくってもだめなんだと感じる。公園が足りないと思えるのは、むしろ現在あるのも利用しきれっていないのではないかな。それで数だけ増やしても同じではないだろうか。 ⇒p62次世代育成支援行動計画「子どもの遊び場確保」に一部反映 ⇒p62次世代育成支援行動計画「地域における子育てネットワーク、仲間づくりの推進」に一部反映
町の施策・体制・理念	アンケートで、松島町に対して満足していないというデータが出ているようだが、自由意見の内容を見ていると、何とかしてこの松島町を変えていってほしいという切実な思いも感じられてくる。自由意見の記述をカテゴリー化して、できること、予算化しなければならないこと、というように一つずつ見ていく必要がある。
⑧一時預かり事業	一時預かりを使う理由で、例えばリフレッシュというのは結構大きな問題。働いていないのに保育を使うなんてといった考えは時代に合わないだろう。今、若いお母さん方はそのあたりの要望が強いと思う。定員の問題もあるだろうが、可能な範囲ならば、今日電話して、空いています、ではこれから連れていきます、というくらい融通がきけばよい。 P54「⑧一時預かり事業」に意見掲載
⑨延長保育事業	アンケートでは、働いているお母さん方は結構遅くまで働いている。仙台まで通っている人は、6時には帰って来られない。そういうことで、預かってほしい希望の時間が出てきているのだと思う。
⑨延長保育事業	預かる時間を延ばすのはよいが、子どもにとってはどうなのだろうかという疑問も感じる。友だちが次々に帰っていき、最後に残って待っている姿など見ると。延長保育の制度というより、お母さん方が早く帰れるようにする国の政策のようなものがあればいいと感じる。 ⇒p64次世代育成支援行動計画「仕事と家庭生活の両立支援」に反映
その他	要望が多く出ている通学路と街灯、やはりアンケートで要望があった。でこぼこしているし、街灯はないし、これは声を大にして言いたい。 ⇒p64次世代育成支援行動計画「子育てを支援する生活環境の整備」に一部反映
子どもを取り巻く環境	子育て支援センターに来ている子どもたちを見ていると、午後は疲れてちょっとぐずっている子どもも多い。早く帰ってお昼寝でもさせたほうが夕方機嫌よく夕飯も食べられるのではないかなと思うが、預かる時間も要望で延長した経緯がある。保護者自身が、何時まで利用するかなど自分たちの生活のペースを大事に考えていくとよい。 ⇒p63次世代育成支援行動計画「家庭や地域における教育力の向上」に反映

第4回	
計画骨子案、事業の課題	
町の施策・体制・理念	計画骨子に「妊娠・出産期からの切れ目のない支援を」とあるが実際はどうか。妊娠した段階から、出産後、児童期まで継続した医療相談や子ども支援相談など、そういう体制がとれているか。定住化を進めるにあたっては大事なところと思う。
⑥子育て短期支援事業	トワイライトステイはアンケートでは要望少数だが、観光に関わる仕事をしている人の子育て・預かる施設がないという自由意見があった。夜勤務する人たちの話だと思う。
その他	子ども・子育て支援事業計画は就学前の子どもが主体とのことだが、就学後の児童についても、放課後や長期休みというところが抜けないようにしてほしい。

町の施策・体制・理念	ショートステイ、トワイライトステイ、病児保育など、町の規模としてできないならできないで、少し近隣の市町村と連携をとってはどうか。松島町ではできないけれども、連携している先で対応してもらえるというような、情報提供体制を整えてもらいたい。町独自でできないものはしょうがない。しかし使いたいサービスをインターネットで調べる、電話帳で調べるということではなく、ここに聞けば教えてもらえるという安心感あれば大分違うはず。 ⇒p51「⑥ 子育て短期支援事業」に意見掲載
⑦ファミリー・サポート・センター事業	ファミリーサポートを利用したいと思うことがあったが、他市に相談しても市民でないと思えないという話だった。近隣の自治体と協定のようなものを結び、プラス松島で対応、というようなことができればよいと思う。 ⇒p52「⑦ ファミリー・サポート・センター事業」【提供の方策・実施の方針】にて検討
広域・近隣市町との連携	松島では近隣2市3町を対象としてこの事業はやる。そのかわり、これはそちらでお願いしますというような連携をやれば、うちにはないので隣接の町をご利用くださいと、全部の町が互いに見えるようになるのではないかと。 ⇒p51「⑥ 子育て短期支援事業」に意見掲載

第5回	事業提供区域の設定
施設配置	人数的に言えば、松島は1つの提供区域で十分果たせるということだろうが、機能の充実したものを各所につくるというのは難しくとも、まず基本が1つあり、サブ的なものを各所に配置すると利用しやすいのではないかと。
提供区域	5年間の計画ということで、提供区域の設定も柔軟性があるということだが、まず1区域設定しても、いろいろな事情で、例えば北部が急に団地ができて人が増えたというようなときには変更が必要であろう。 ⇒p35「教育・保育の提供区域 考え方」に反映
提供区域	提供区域の設定が細かいと、人の多いところ、少ないところが極端なので、区切られる弊害が出てくるだろうと思う。そこは1区域で柔軟性を持って対応していくという方がメリットがあるし、無駄なお金を使うこともなく、経費も削減できる感じがする。ただ、町の長期的な計画なども照らし合わせて、あるいは人口増の可能性も考えて子育ての事業のあり方を考えるべき。柔軟性があるのであればよい。 ⇒p35「教育・保育の提供区域 考え方」に反映
第5回	量の見込み、町の計画数(確保の方策)
教育・保育	待機児童がいて、保育所をつくって定員を増やして対応すると、結果、待機児童がもっと増えるということが事例としてまあることだと思う。ニーズというのは、今やっていないから希望が出ないだけで、やり出すと、それじゃ私も使おうと思う人が出てくるのではないかとと思う。 ⇒p42「(幼児期の教育・保育)量の見込みと確保の方策」に意見掲載
広域・近隣市町との連携	町単独で事業ができないならば、例えば県でやっている、他の市でやっている、ここでこういう事業をやっているからここに連絡して頼っていきなさい、ちゃんと紹介してあげますよというような体制を整えていくことをぜひ検討してほしい。そういう体制づくりに国からの補助などをうまく使っていけばいいのではないかと。 ⇒p46「① 利用者支援事業」にて実施の方向

第6回	地域子育て支援事業
①利用者支援事業(新)	利用者支援事業について。大事なことを説明する窓口担当者が中途半端ではきちんと説明ができないと思う。すばらしい事業なので、やるならばきちっとした職員を置いて、情報を的確に伝えて、親が利用しやすいものをつくってほしい。 ⇒p46「① 利用者支援事業」に反映
①利用者支援事業(新)	利用者支援事業について。保育を中心にした利用者支援だけでなく、幅広く子育て全体、いろいろな生活実態などにも対応できる専門職を配置したほうが良いと思う。この事業はやった方がよいが、どんな専門職がその仕事につくのか、実際にどのぐらいの頻度で専門職が関わるのかなどはつきりさせたほうが良い。 ⇒p46「① 利用者支援事業」に反映
①利用者支援事業(新)	利用者支援事業について。利用する保護者はずっとつながっていかなくて、ここまでは保育所の仕事、ここからは学校の仕事などと切れてしまうのでは意味がない。松島の子どもをずっと見守ってくれるような形が必要と思う。 ⇒p46「① 利用者支援事業」に意見掲載
⑨延長保育事業	預かりが朝7時からというのは松島町内で働いている人ならよいが、仙台に勤めると朝6時半ごろに家を出るから預けられない。仙台に連れていって預けることになる。そういう実情を見据えた形で保育所の延長保育など考えなければ。町内に働きに来ている人たちも多いと思うので、そこも意識して時間のセッティングはあるべき。実情に合った時間設定とするなら朝6時の開始だと思う。
⑨延長保育事業	延長保育は親にとってはいい制度だが、子どもにとってはどうなのか。朝の7時から夜の8時までずっと保育所にいて、帰りは、はやくはやくと急かされて帰る。朝も、さあ起きて、すぐ御飯だよ、すぐ出るよというものが痛むところ。 ⇒p55「⑨ 延長保育事業」に意見掲載
⑨延長保育事業	自分は朝7時から夜7時まで使っているがとにかくその範囲を超えないようにするのをすごく意識している。帰りが遅くなれば子どものペースも自分たちも大変になるので、周囲に協力してもらえるところはほしい、自分たちの生活を乱さないというのも保育所を利用する上で大事だろう。 ⇒p55「⑨ 延長保育事業」に意見掲載

町の施策・体制・理念	働く人たちの支援が町内にないといけない。松島に住んで子どもを産んで育ててもらい、少子高齢化や人口減少対策にはこれが大事。
⑪放課後児童クラブ	4年生以上の対応について。実質、3年生ぐらいになると来なくなる。子どもは自分の放課後の自主的な時間をつくりたいと思っているようだ。4年生以上は親のニーズは高いが、子どもに聞いてみると希望はほぼゼロ、高学年対応を実施しても利用は少ないのではないかと。むしろ、何か問題や課題を抱えている家庭の方は預けたいと思うだろうから、特別な支援体制の充実が必要。 ⇒p58「⑪ 放課後児童健全育成事業」に意見掲載
⑪放課後児童クラブ	利用無料という言葉は非常に心地よいが、何でもただというのは考えもので、お金を取られて当然だがほかより安くいてありがたいというような、親の意識の醸成も考えていいのではないかとと思う。
⑪放課後児童クラブ	児童館では五小学区の子は使えないと思う。幼稚園なら延長で預かってもらえるが、小学校低学年の子どもの行き場がないというのが困るところ。
⑪放課後児童クラブ	放課後児童健全育成事業、松島は非常によくやっているとは私は評価しているが、そこから漏れた子どもたちの放課後の健全育成という視点がちょっと欠けているなどと思うところがある。例えば長期休暇中、子どもがひとりで友達のうちに遊びに行くといつても何キロ先なのか、親もいつも車で送り迎えできるわけではない。安心して子どもが外で遊べるような空間といった視点も加えていただきたい。
⑪放課後児童クラブ	他市で、私立で、保護者が自主的につくる学童保育は月1万2～3千円取っている。市でやっている学童は最初に500円集めるだけであとは無料。それが同じくらい利用されているのは、私立は自治的運営で、どういう学童の運営をするか希望をもった保護者会が運営しているからのようだ。希望に応えられて、必要ならば、お金はある程度取っていいと思う。
⑪放課後児童クラブ	放課後児童健全育成事業が何のためにあるのか考えてみる必要があるのではないかと。子どもの健全育成というのは24時間を指しているだろう。学校の門を出たら先生は注意しないということになってはいけない。町で責任をもって運営という考え方は大事で、行政の負担はあるだろうが必要な経費だ。
⑪放課後児童クラブ	子ども2人で共働きだから保育所では最高額を払って小学校に入るのが楽しみと言う人がいた。学童にはお金がかからないからと。保育所ではお金を払っているのに小学生になると無料というのも矛盾しているように思った。学童もある程度料金かかっても納得いくのではないかと気がする。
⑪放課後児童クラブ	無料という松島町の現状はすごいと思う。ただ、外遊びをさせてくれない、暑くても水遊びもだめなど制約もあるようで、聞けば、指導者が臨時なので少しでも危険なことには責任持てないという話が出てくる。正職員なら何でもできるというわけではないだろうが、人件費を節約するなど子どもの健全な育成につながるメニューを持ってないとなれば意味がない。人件費の確保、指導員の充実が必要と思う。 ⇒p58「⑪ 放課後児童健全育成事業」に意見掲載
⑥子育て短期支援事業	ショートステイやトワイライトステイなど、松島町単独でやればよい話だが、むしろ広域的な議論も必要だろう。近隣の2市3町あたりで議論するとよいのではないかと。 ⇒p51「⑥ 子育て短期支援事業」に意見掲載
子どもを取り巻く環境	一人の子どもについて何か問題があった場合、子ども自体の問題、家庭環境、保護者、地域の問題などいろいろ要因があると思うが、その対応ではこれは母子保健の関係、こちらは子育て支援の関係というように事業がさまざまなのだと思う。子どもの抱えている課題をどうにかしてこうとしたときには、全部連携できるような仕組みってできないか。利用者支援事業というのはそれには使えないか。 ⇒p46「① 利用者支援事業」にて検討
⑩病児保育事業	病児保育は絶対必要な事業だと思うが、だからといって必ずしも町ができる事業ではないとも思う。厚労省なりが病院に働きかけてそういう施設を整えるようなものではないか。そういう要望を行政会議で出すべきではないか。 ⇒p56「⑩ 病児保育事業」に意見掲載
⑩病児保育事業	病児保育について。保護者が面倒をみるのが一番、祖父母が近くにいれば見てもらえるが必ずしもそうできるとは限らない。子どもは朝にいきなり頭が痛いか下痢をしたりと、予測もできない。仕事でどうしても出さなければならぬというときには、お金がかかっても、町以外の施設利用でも、情報を提供してくれる体制など整えてもらえればと思う。 ⇒p56「⑩ 病児保育事業」に意見掲載

第7回	地域子育て支援事業
⑦ファミリー・サポート・センター事業	一時預かりで困ったとき、他地域の介護事業所(民間ホームヘルパー派遣会社)で子どもの送迎をしてもらったことがある。シルバーなど人材活用することなどは町で考えられないか？ ⇒p52「⑦ ファミリー・サポート・センター事業」に意見掲載
⑦ファミリー・サポート・センター事業	ファミリー・サポート・センターで、病児の預かりとなると、かなり具体的に安全対策を町で決めて考えなければいけないと思う。預ける方が不安にならぬように。
町の施策・体制・理念	幼稚園、保育所は、今役場内で管轄が違うが、今後はどうするのか。これからの幼児教育を考える場合、組織としていつまでも分かれているのはおかしい。松島町の子どもはここで扱うというような一本化を検討すべき。